

2018年7月18日

株式会社日立ソリューションズ

多様な立場の建設関係者が 3D 建物モデルと関連情報を共有・活用できる 「活文 BIM データ共有・活用ソリューション」を提供開始

BIM データを 3D ビューで共有し、問題点を共通認識しながら推進することで、早期の課題解決に貢献

株式会社日立ソリューションズ(本社:東京都品川区、取締役社長:星野 達朗/以下、日立ソリューションズ)は、ステークホルダーが多い建設関係者間で「3D 建物モデル(BIM^{*1}データ)」を BIM の専用ソフトウェアなしに、3D ビューアで参照でき、関連する情報と合わせて共有・活用できる「活文 BIM データ共有・活用ソリューション」を 7 月 31 日から販売開始します。

本ソリューションは、総合建設業者(以下、ゼネコン)や、建築工事や電気設備工事、空調・衛生工事などの下請建設業者(以下、サブコン)の設計者が個別に作成した BIM データを、大容量高速転送技術^{*2}で転送して一元管理することで、関係者と迅速に共有できます。

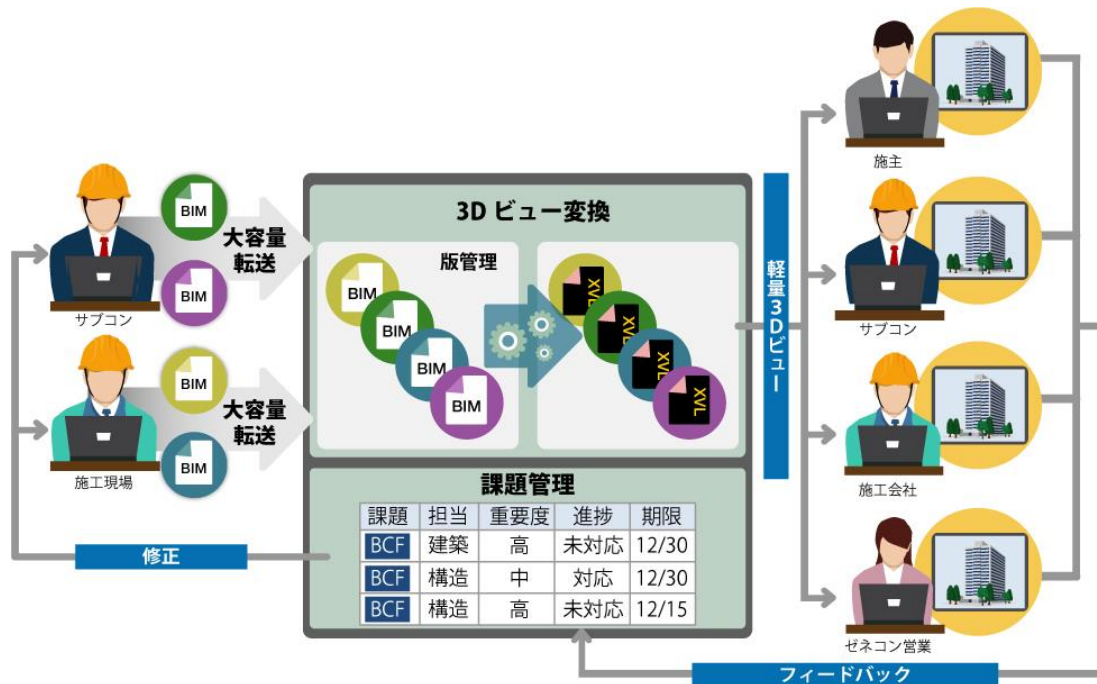
また、BIM データを統合して検証した結果や、課題、変更点などの情報も紐付けして管理できるため、課題や修正の意図が伝わりやすくなり、ゼネコンやサブコンの各設計者の迅速な修正が可能になります。さらに、更新後の BIM データは、自動で版管理されますので、誰が、いつ、設計変更したのか、履歴と共に後から確認できるので、手戻り防止につながります。

本ソリューションを導入することで、建築プロジェクトの関係者は、最新の BIM データを 3D ビューで共有し、問題点を共通認識しながら、プロジェクトを推進することが可能となるため、早期の合意形成や課題解決により、建築プロジェクト全体の生産性向上を実現できます。

本ソリューションは、企業間情報共有システム「活文 Managed Information Exchange」が前提となっており、その中の大容量高速ファイル転送やドキュメント保護の機能を活用しています。

*1: Building Information Modeling の略で、設計や施工を進めるためにコンピュータ上に構造物の三次元の形状情報に加え、材料・部材の仕様、性能、仕上げ等の属性情報を併せ持つ構造物の情報

*2: 複数の HTTPS 通信を同時に利用し、ファイルを転送する技術



図「活文 BIMデータ共有・活用ソリューション」の概要

■ 背景

建築業界は、五輪などの需要で活況を帯びている一方で、労働力不足の問題が深刻化しており、生産性を向上していくことが求められています。

建築設計、施工現場では、多様な関係者間の合意形成や事前デジタル検証、ICT 技術活用など、生産性を向上するための手段として、BIM の適用が進められています。

しかし、BIM 導入にあたっては、専用ソフトウェアや専門技術者が必要になることに加えて、社外関係者間との大容量の BIM データ共有手段も課題となり、特定の事業者間でしか BIM データを活用できていません。そこで、日立ソリューションズでは、建築プロジェクトの関係者が BIM データを容易に 3D ビューアで参照でき、さらにその変更履歴や課題を共有できるシステムとして、「活文シリーズ」の技術を活用した本ソリューションを提供することになりました。

■ 「活文 BIM データ共有・活用ソリューション」の特長

1. プロジェクト関係者が BIM データを無償配布の 3D ビューアで参照可能

各設計者は、作成した GB サイズとなる大容量の BIM データを、多重化通信技術によって、共有サーバーに高速で転送できます。これにより、プロジェクト関係者は、転送された BIM データを、ラティス・テクノロジー株式会社が無償で配布している超軽量 3D フォーマット技術「XVL」のビューアで参照*3し、共有できます。

*3: 3D で参照できるのは、IFC (Industry Foundation Classes) 形式のデータが対象

2. BIM データを検証結果の課題と紐付けて共有することで、迅速な修正を実現

BIM データの形状の整合性や干渉チェックの結果や、課題を紐付けて共有することで、課題や修正の意図が伝わりやすくなることから、ゼネコンやサブコンの各設計者はフィードバックされた情報を基に、BIM データを迅速に修正して、最新の BIM データに反映できます。

また、更新後の BIM データは、自動で版管理されますので、誰が、いつ、設計変更したのか、履歴と共に後から確認することが可能となります。

これらの特長により、最新の BIM データを関係者間で共有しながら、問題点などの認識合わせを行うことで、システム上でリアルタイムに対策の進捗状況を確認したり、対策漏れを防止したりするなど、早期の合意形成や課題解決が可能となります。また、検証後に、各設計者が個々の BIM データを修正する際に統合時の BIM データを明確にできるため、手戻り作業を低減でき、建築プロジェクトの生産性向上を支援します。

■ 「活文 BIM データ共有・活用ソリューション」の価格

個別見積

■ 「活文 BIM データ共有・活用ソリューション」の前提製品

企業間情報共有システム「活文 Managed Information Exchange」

■ 販売開始日：7月31日

■ 「活文」について

すべてはビジネスデータを活かすために。

活文はより業務課題にフォーカスしたソリューションで応えます。

www.hitachi-solutions.co.jp/katsubun/sp/

■ 製品・ソリューション紹介URL

「活文 BIMデータ共有・活用ソリューション」:

www.hitachi-solutions.co.jp/katsubun/sp/bim/

企業間情報共有システム「活文 Managed Information Exchange」:

www.hitachi-solutions.co.jp/katsubun/sp/mix/

■ 商品・サービスに関するお問い合わせ先

ホームページ: www.hitachi-solutions.co.jp/inquiry/ Tel: 0120-571-488

◎ 株式会社 日立ソリューションズ

本社 〒140-0002 東京都品川区東品川四丁目12番7号
Tel: 03-5780-2111 ホームページ: www.hitachi-solutions.co.jp/

日立ソリューションズ

■ 報道機関からのお問い合わせ先

担当部署: 経営企画本部 広報・宣伝部

担当者: 廣納(ひろのう)、安藤

Tel:03-5479-5013 Fax:03-5780-6455 E-mail:koho@hitachi-solutions.com

日立ソリューションズ グループは、お客様の業務ライフサイクルにわたり、豊富なソリューションを全体最適の視点で組み合わせ、ワンストップで提供する「ハイブリッドインテグレーション」を実現します。

※ 活文、ハイブリッドインテグレーションは、株式会社日立ソリューションズの登録商標です。

※ その他記載の会社名、製品名は、それぞれの会社の商標もしくは登録商標です。

◎ 株式会社 日立ソリューションズ

本社 〒140-0002 東京都品川区東品川四丁目12番7号
Tel:03-5780-2111 ホームページ:www.hitachi-solutions.co.jp/

日立ソリューションズ 